
ランブルボール

下瀬楽

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ランブルボール

【コード】
N1939C

【作者名】
下瀬楽

【あらすじ】
三人家族に飼われている白い猫と家帰らないおれのショートストーリーです。

(前書き)

初めまして。初めての投稿です。

クポック
猫の心臓は早過ぎで合わせたくても一向に心音は揃う事が無い。
それでも小動物の体温には驚かされる。
こんなに温かくて大丈夫なのか。
やるなサクラさん。

なんか猫のしつぽを喰い殺す小説が昔あった様な気がするけどさ。
やっぱおれには出来ないわ。だってカワイイんだもん。

猫さんは。

「キモい。なに猫にさん付けしてんの。いぬにも付けてやれば。」

「やだ。いぬキライ。」

べしっ。成島雪見は僕を足げにする。

やっぱりいぬ好きなんだ。

「いい加減家に帰ったら？」内の母さん迷惑してるって言いながら、
なべ焦がすし。

そりゃあおばちゃん雪見が買ってきたメダカばかり見てるからだ
る。

「父さんも最近帰りが遅いし。」

全然おれのせいじゃないよ。

そう言ったらまた背中をはたかれた。

雪見の平手うちは本当に痛い。紅葉ばかりだよ。
なサクラさん。

サクラさんが成島家に母親の幸さんに拾われたのが、雪見が中学二年生の冬だったらしい。
真っ白な子猫を雪の降らない日に。

サクラさんオスだもん。

ケンカを余所の猫としてくるから、いつも傷だらけで痛々しい。

瞳の色が左右違ってて、右目は黄みがかった緑で、左目が空の様な青。 抉り出したくなるね。

まあ、しないんだけど。

丸くなっておれの手を枕に気持ちいいんだろうなあ。
今は見えないや。

心臓の音が重なるまで家には帰りたく無い。

そう言ったて雪見にまた殴られた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1939c/>

ランブルボール

2010年10月11日15時33分発行